

2023年3月期 第2四半期 決算説明会

2022年11月10日

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

2023年3月期 第2四半期決算状況

1. 売上高・利益	4
2. セグメント別業績	6
・自動車電池（国内）	7
・自動車電池（海外）	9
・産業電池電源	11
・車載用リチウムイオン電池	12
・特殊電池およびその他	13
3. 貸借対照表	14
4. キャッシュ・フロー計算書	15
5. 設備投資・減価償却費・研究開発費	16
6. セグメント別業績予想の修正	17

蓄電池を取り巻く環境と戦略

1. 蓄電池市場の拡大と日本の蓄電池産業戦略	19
2. 再エネ市場での蓄電池の活用	20
3. GSユアサの再エネ市場での取り組み	21
4. GSユアサの再エネ市場での強み	22

GSユアサ エナジーとのシナジー効果の創出

1. 譲受後の業績とシェアの推移	25
2. シナジー効果の創出	26

2023年3月期 第2四半期決算状況

1. 売上高・利益



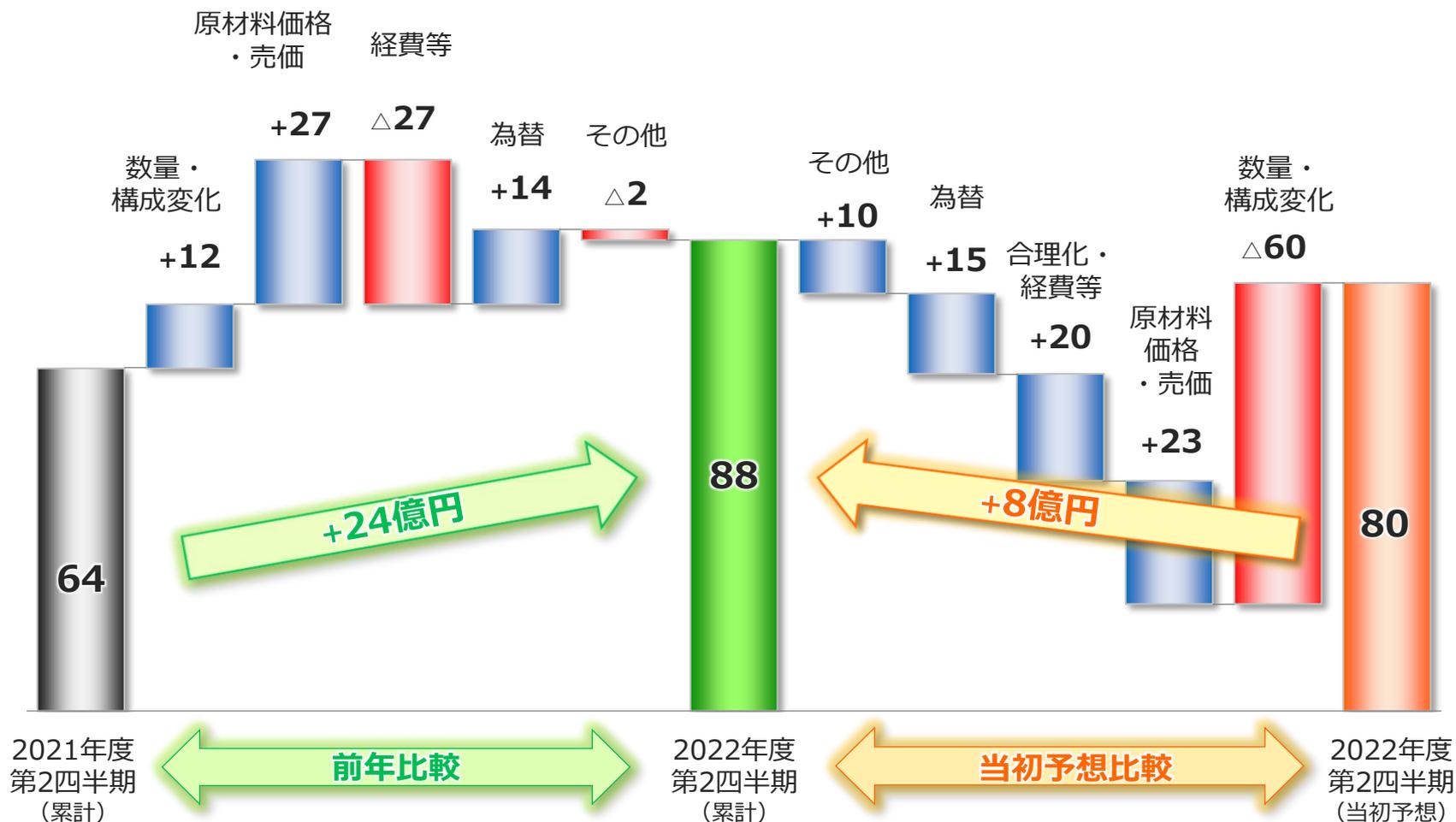
(億円)

	2021 年度 第2四半期 (累計)	2022 年度 第2四半期 (累計)	増減	(前期比)
売上高	1,951	過去最高 2,352	+401	(+20.6%)
営業利益 (営業利益率)	52 2.7%	過去最高 82 3.5%	+30 +0.8P	(+57.3%)
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	64 3.3%	過去最高 88 3.7%	+24 +0.4P	
経常利益	66	60	△6	(△8.4%)
特別利益	15	15	△0	
特別損失	17	3	△14	
税前四半期純利益	64	72	+8	
法人税等	21	32	+11	
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	23	+1	
親会社株主に帰属する四半期純利益 (四半期純利益率)	22 1.1%	17 0.7%	△5 △0.4P	(△22.4%)
のれん等償却前 親会社株主に帰属する四半期純利益 (のれん等償却前四半期純利益率)	32 1.6%	22 0.9%	△10 △0.7P	
国内鉛建値 (万円/t)	30.52	34.17	+3.65	
L M E (US\$/t)	2,234	2,090	△144	
為替 (円/US\$)	110.10	135.30	+25.20	

1. 売上高・利益

営業利益増減要因 (前年・当初予想比較)

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。

2. セグメント別業績

(億円)

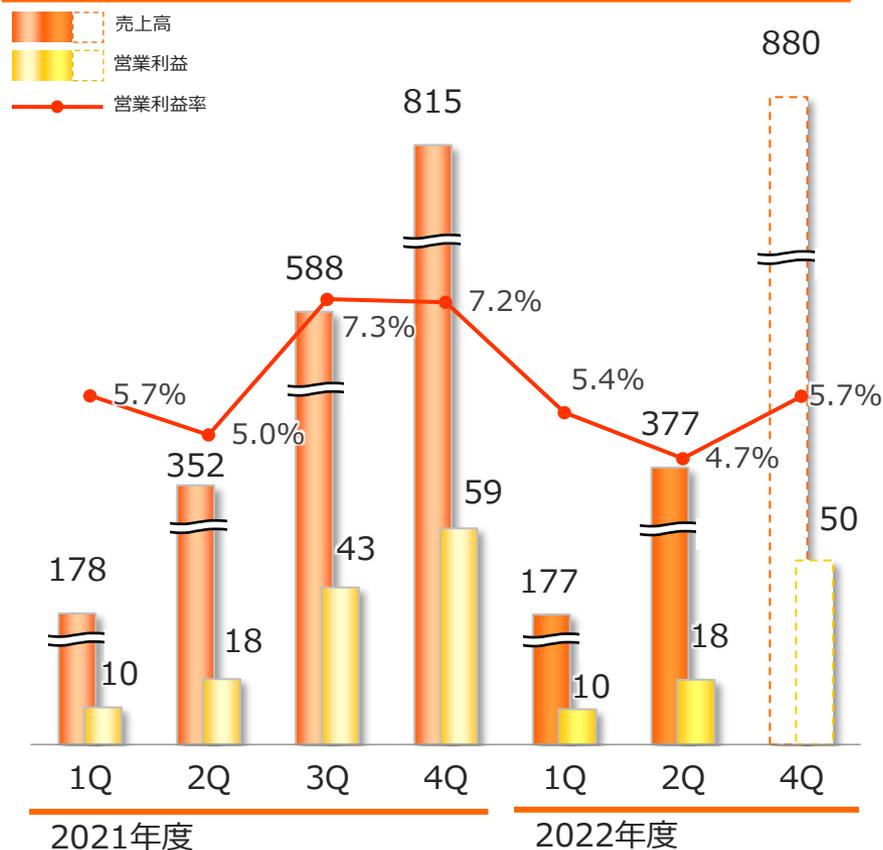
		2021 年度 第2四半期 (累計)		2022 年度 第2四半期 (累計)		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	352	18 (5.0)	377	18 (4.7)	+25	△0 (△0.3)
	海外	876	43 (4.9)	1,218	61 (5.0)	+342	+18 (+0.1)
産業電池電源		460	△2 (△0.3)	404	8 (1.9)	△56	+10 (+2.2)
車載用リチウムイオン電池		184	2 (0.9)	273	2 (0.7)	+89	+0 (△0.2)
特殊電池およびその他		79	2 (2.9)	80	△0 (△0.5)	+1	△2 (△3.4)
合計		1,951	64 (3.3)	2,352	88 (3.7)	+401	+24 (+0.4)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

増収減益

(億円)

2022年度 第2四半期商況

- ▶ 新車向け販売数量は、半導体不足などによる新車メーカー減産が継続し減少
- ▶ 補修向け販売数量は、保有車両の継続使用増加の影響により好調に推移

増減益要因

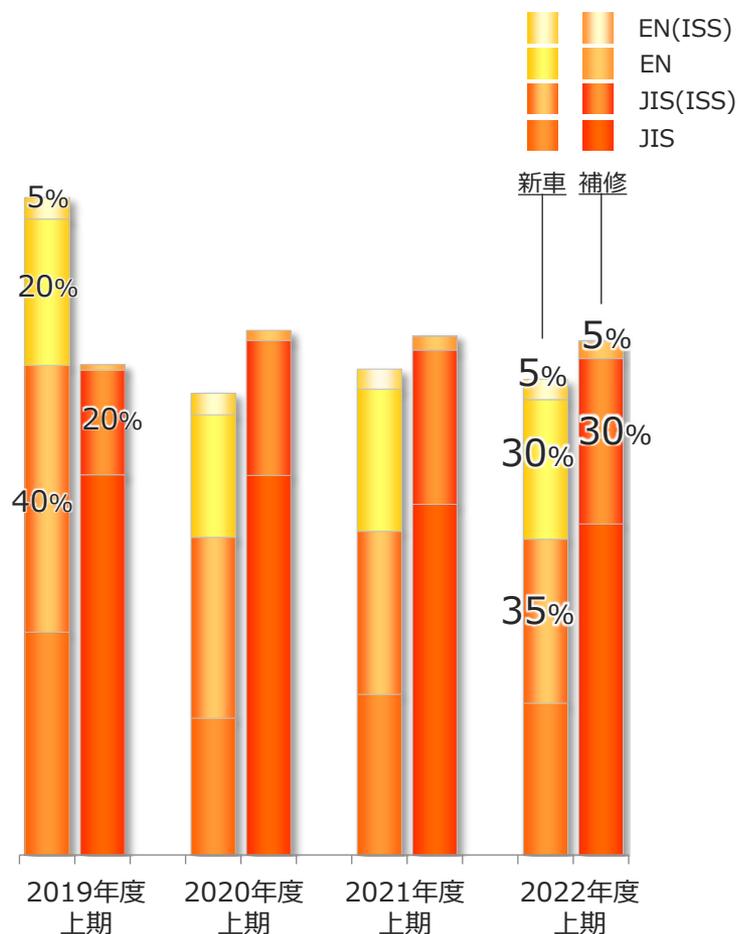
数量・構成変化	△5
原材料価格・売価	+3
合理化・経費等	+2

2. セグメント別業績（自動車電池（国内））

新車・補修向け出荷割合／シェア



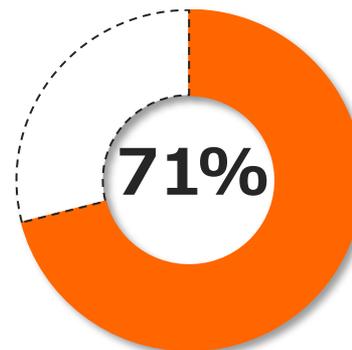
出荷割合



シェア（2022年度上期／グループ合計）

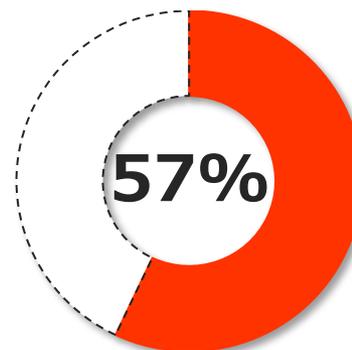
新車向け

72%
(2019年度上期)



補修向け

57%
(2019年度上期)

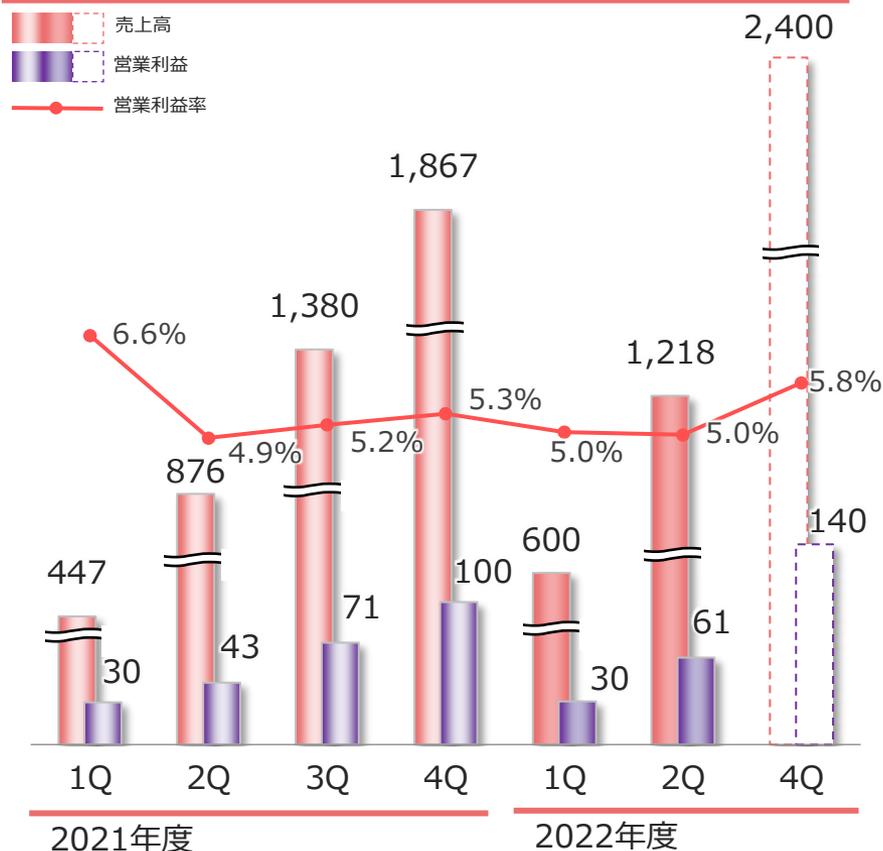


(注) 自社調べ（輸入電池含まず）

2. セグメント別業績（自動車電池（海外））

自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率



増収増益

(億円)

2022年度 第2四半期商況

- ▶ 東南アジアでの自動車・オートバイ用販売数量は好調をキープ
- ▶ トルコ拠点の連結化により自動車用販売数量が増加
- ▶ 円安の影響により売上高が増加

増減益要因

数量・構成変化	+2
原材料価格・売価	+21
経費等	△19
為替	+14

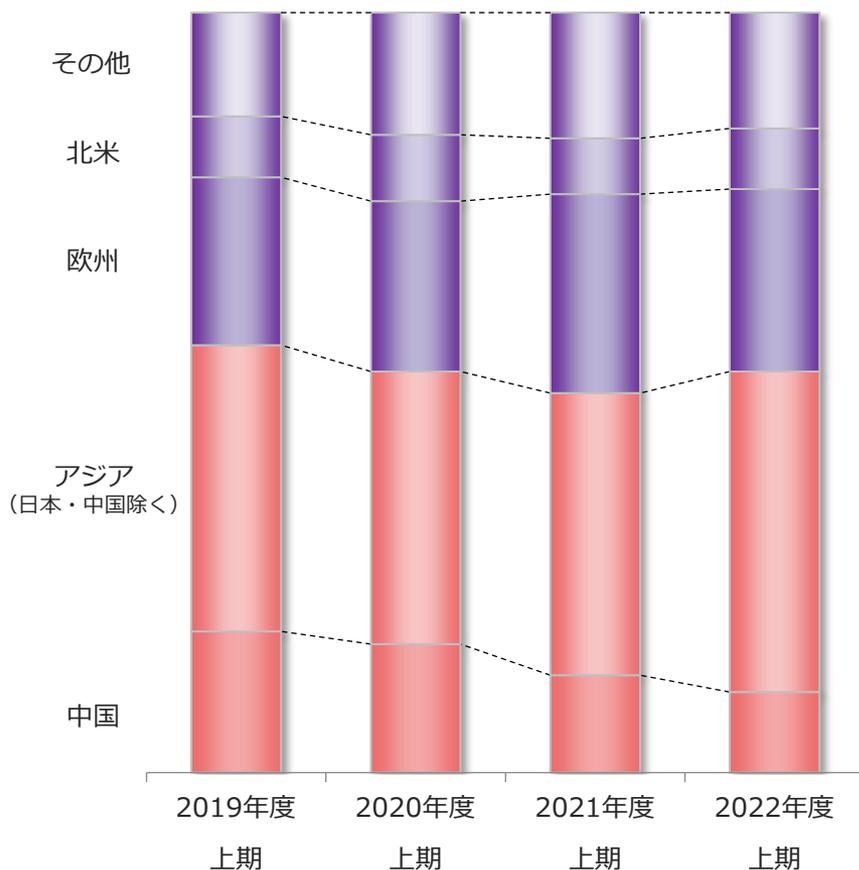
(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

2. セグメント別業績（自動車電池（海外））

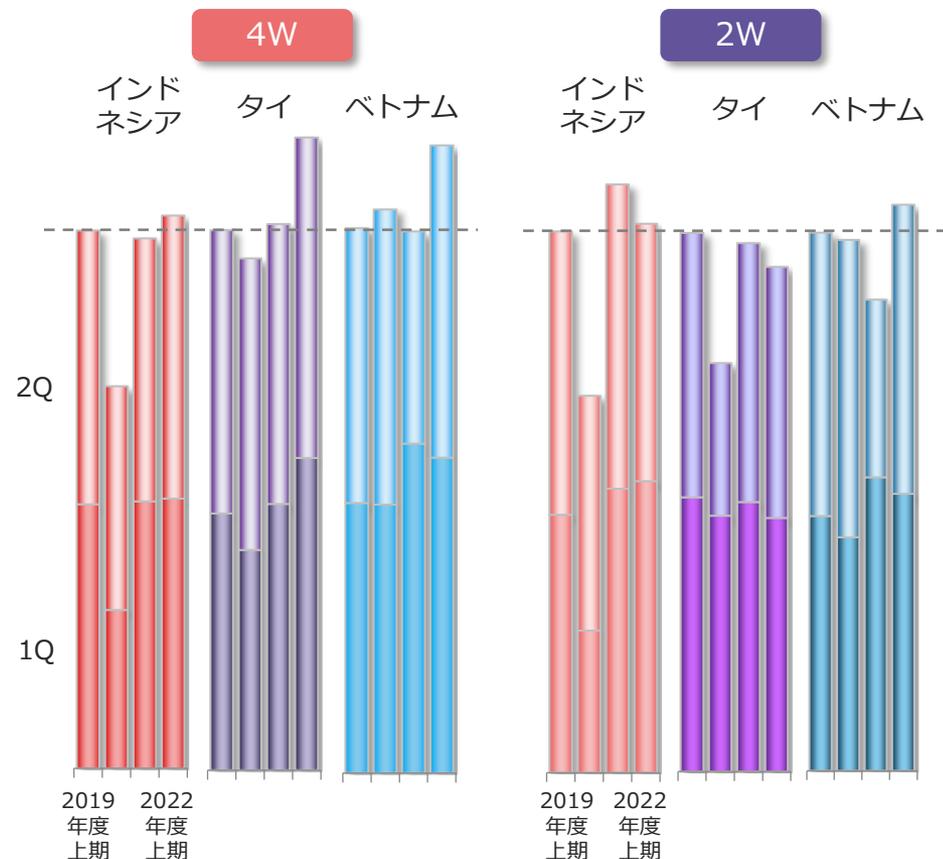
地域別売上高／インドネシア・タイ・ベトナムの出荷割合



地域別売上高（産業用含む）



インドネシア・タイ・ベトナムの出荷割合

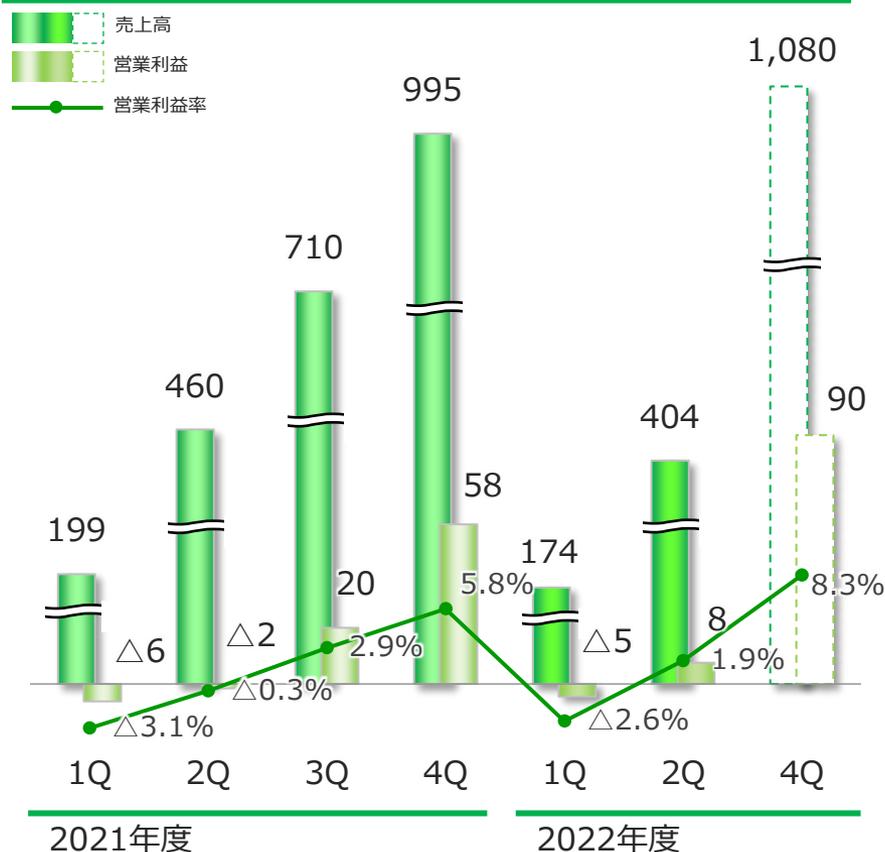


(注) 持分法適用会社含む

2. セグメント別業績 (産業電池電源)

産業電池電源

売上高・営業利益・利益率



減収増益

(億円)

2022年度 第2四半期商況

- ▶ 北海道大規模風力発電向け系統連系用リチウムイオン電池の納入が前年度終了したことで売上高が減少
- ▶ バックアップ用電池電源装置はミニUPSの部品長納期化により売上高が減少
- ▶ フォークリフト用は補修向け数量が堅調に推移

増減益要因

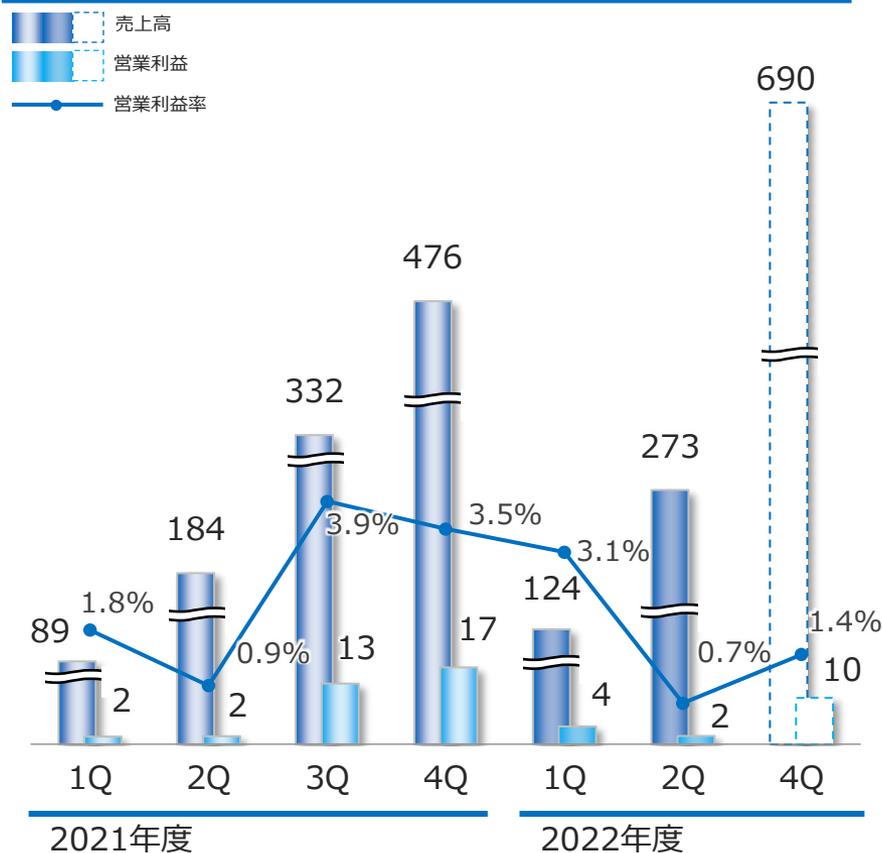
数量・構成変化	+8
原材料価格・売価	△1
合理化・経費等	+3

2. セグメント別業績 (車載用リチウムイオン電池)

車載用リチウムイオン電池

増収増益

売上高・営業利益・利益率



(億円)

2022年度 第2四半期商況

- ▶ [ブルーエナジー (BEC)]
ハイブリッド車用リチウムイオン電池は第2工場の稼働開始により販売数量が増加
- ▶ [リチウムエナジー ジャパン (LEJ)]
プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池搭載車種の販売が増加

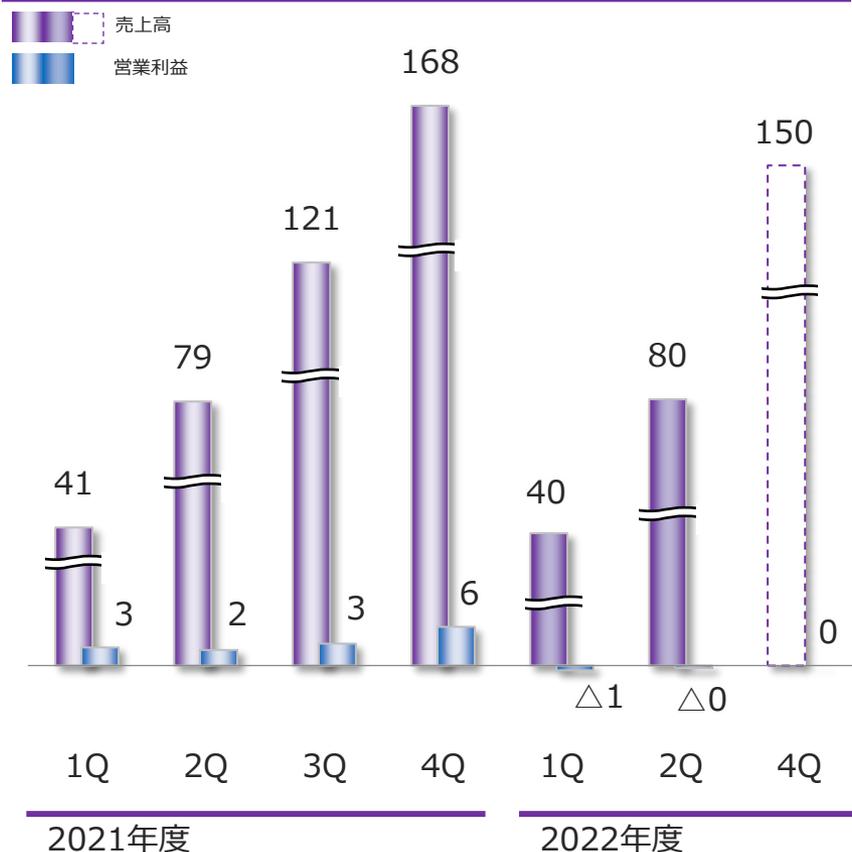
増減益要因

数量・構成変化	+7
原材料価格・売価	+4
経費等	△11

2. セグメント別業績 (特殊電池およびその他)

特殊電池およびその他

売上高・営業利益



増収減益

(億円)

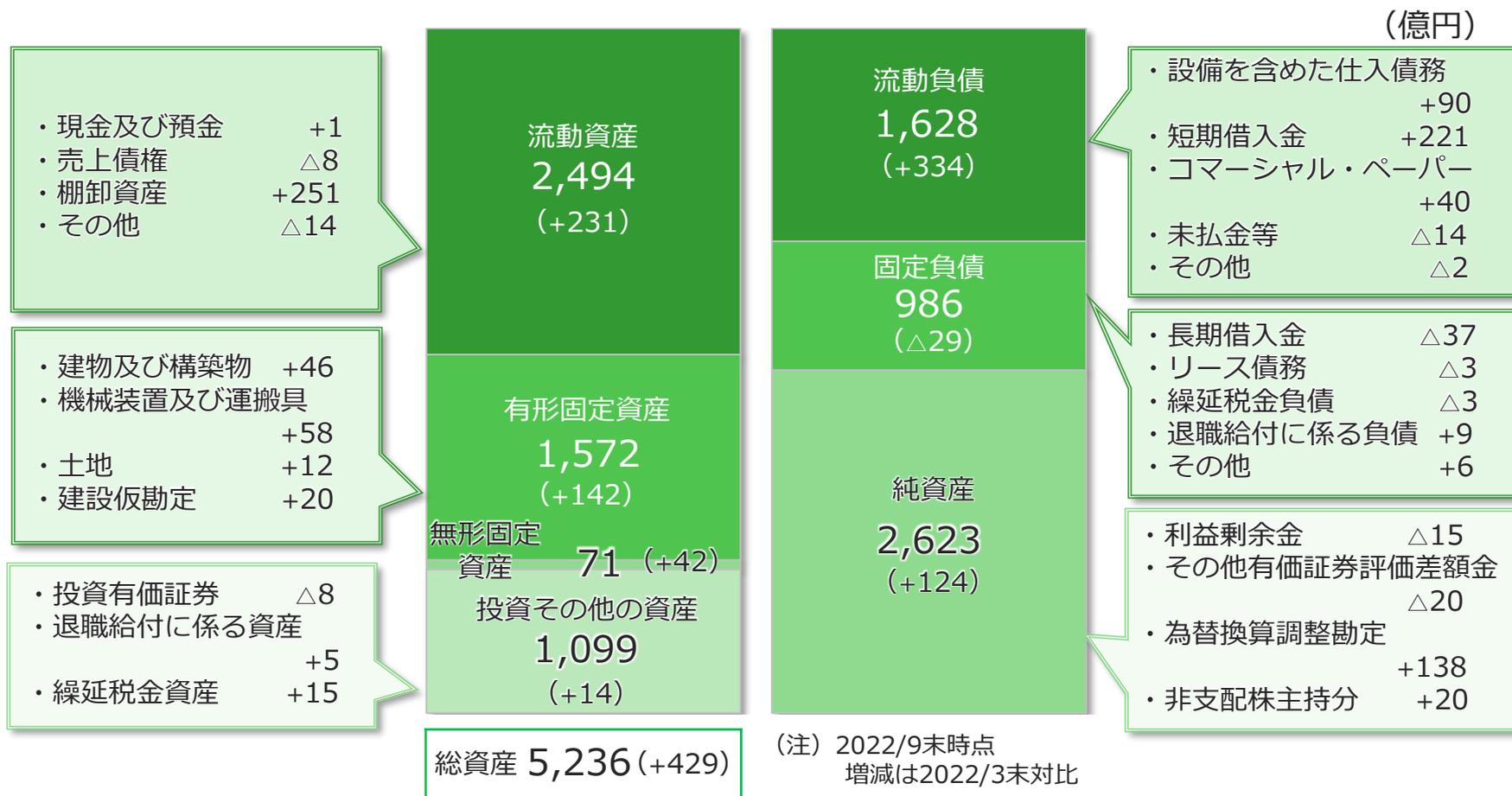
2022年度 第2四半期商況

- 潜水艦用リチウムイオン電池の売上高は工事進行基準の関係で減少
- 航空機用リチウムイオン電池は主としてエアライン（補修）向け販売数量が増加

増減益要因

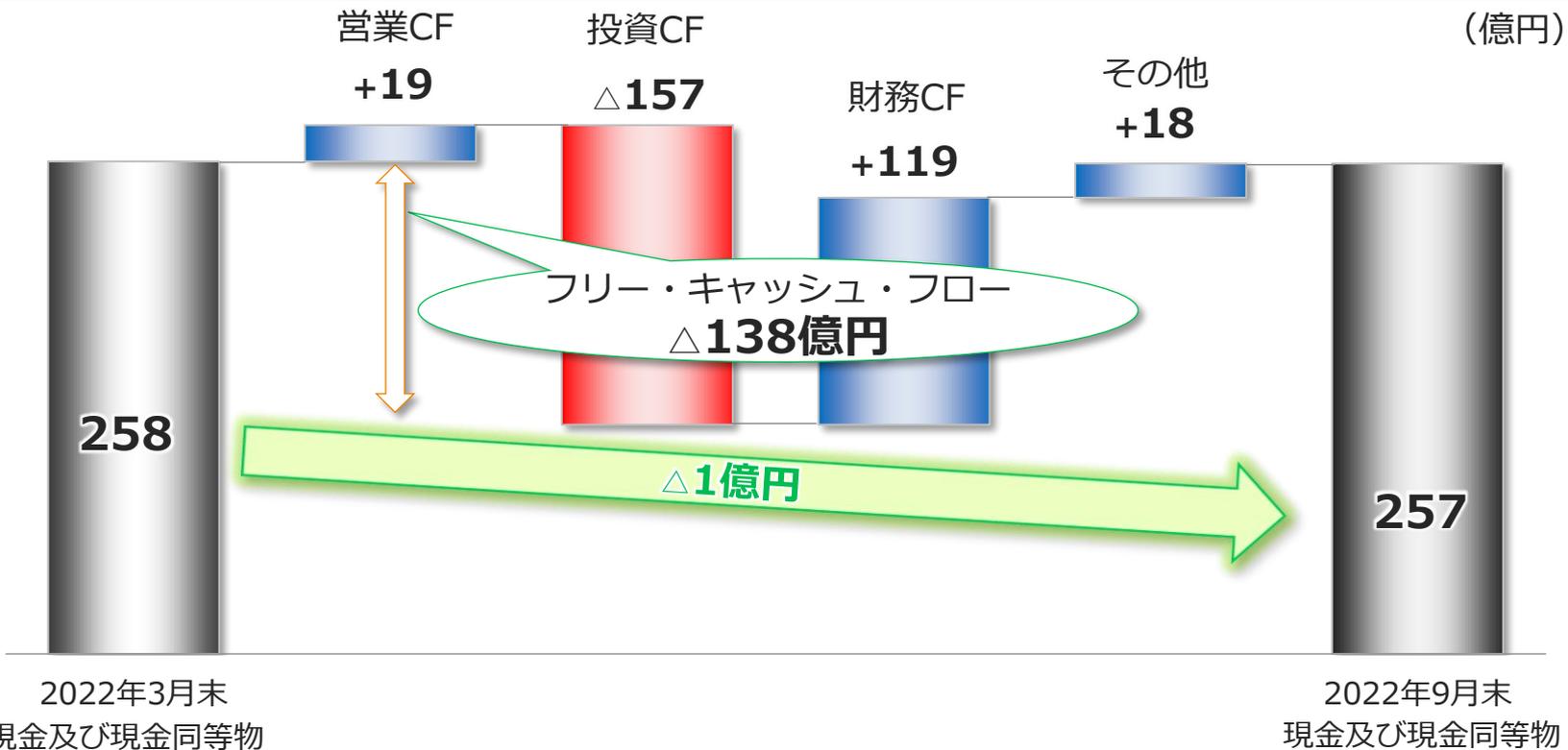
経費の増加により減益

3. 貸借対照表



	2022/3末	2022/9末
自己資本比率	44.8%	43.1%
借入金総額	825億円	1,048億円

4. キャッシュ・フロー計算書



ポイント

- 税前利益72億円を確保したものの、主として棚卸資産の増加により、営業CFは19億円にとどまった。
- BEC第2工場への投資などにより投資CFはΔ157億円となった。
- フリー・キャッシュ・フローはΔ138億円となったが、借入の実施で株主還元などに充当した。

5. 設備投資・減価償却費・研究開発費



(億円)

		2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	2021年度 通期	2022年度 通期 (予想)
設備投資額		133	139	286	320
自動車電池	国内	17	9	38	40
	海外	23	27	53	70
産業電池電源		6	19	13	40
車載用リチウムイオン電池		28	47	110	80
特殊電池およびその他		60	37	72	90
減価償却費		83	93	168	180
うち、車載用リチウムイオン電池		15	18	31	40
研究開発費		61	64	124	135
(売上高研究開発費率)		3.1%	2.7%	2.9%	2.6%

6. セグメント別業績予想の修正

(億円)

		2021 年度 実績		2022 年度 当初予想 (A)		2022 年度 修正予想 (B)		増減 ((B)-(A))	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車 電池	国内	815	59 (7.2)	920	50 (5.4)	880	50 (5.7)	△40	- (+0.3)
	海外	1,867	100 (5.3)	2,360	140 (5.9)	2,400	140 (5.8)	+40	- (△0.1)
産業電池電源		995	58 (5.8)	1,080	90 (8.3)	1,080	90 (8.3)	-	- (-)
車載用リチウム イオン電池		476	17 (3.5)	700	10 (1.4)	690	10 (1.4)	△10	- (-)
特殊電池 およびその他		168	6 (3.4)	140	0 (-)	150	0 (-)	+10	- (-)
合計		4,321	239 (5.5)	5,200	290 (5.6)	5,200	290 (5.6)	-	- (-)

修正の理由

- ▶ 新車メーカーの減産影響および前提条件の変更を反映し、セグメント別売上高を修正

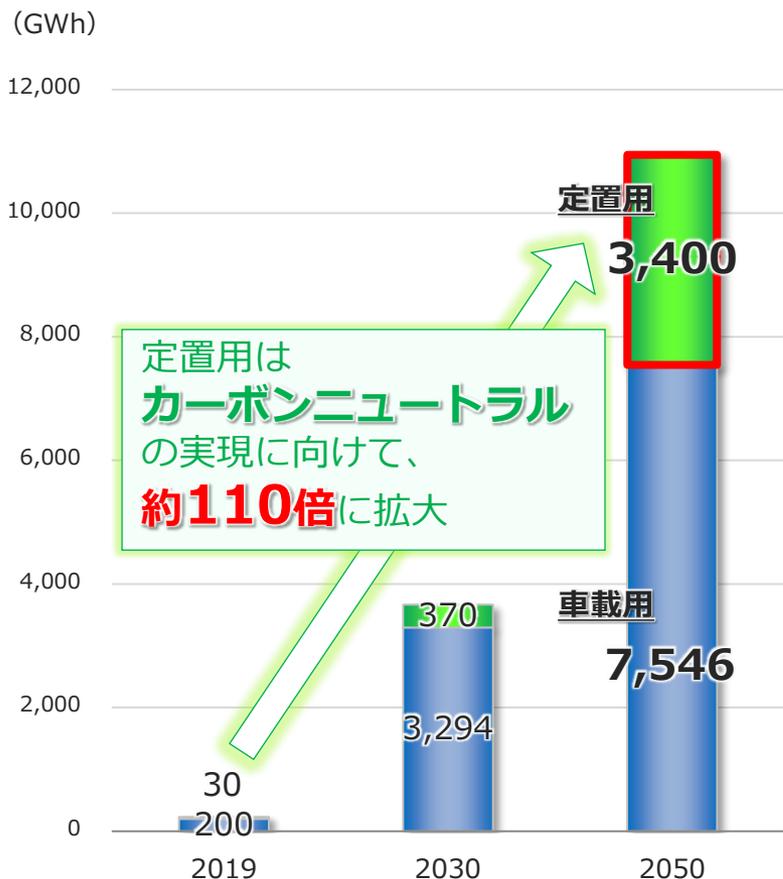
	当初予想	下期予想
国内鉛建値 (万円/t)	34.1	34.0
LME (US\$/t)	2,300	1,950
為替 (円/US\$)	120.0	142.5

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。

蓄電池を取り巻く環境と戦略

1. 蓄電池市場の拡大と日本の蓄電池産業戦略

グローバルでの蓄電池導入予想



出典：IRENA Global Renewables outlook 2020
「Energy Transformation 2050」より当社作成

日本の蓄電池メーカーのプレゼンス拡大を狙う 「蓄電池産業戦略」

1st Target : 液式LiBの製造基盤の確立

《国内製造能力目標》

遅くとも2030年までに：**150GWh/年**

2nd Target : グローバルプレゼンスの確保

《グローバル製造能力目標》

2030年に：**600GWh/年**

グローバルシェア：**20%**

3rd Target : 次世代電池市場の獲得

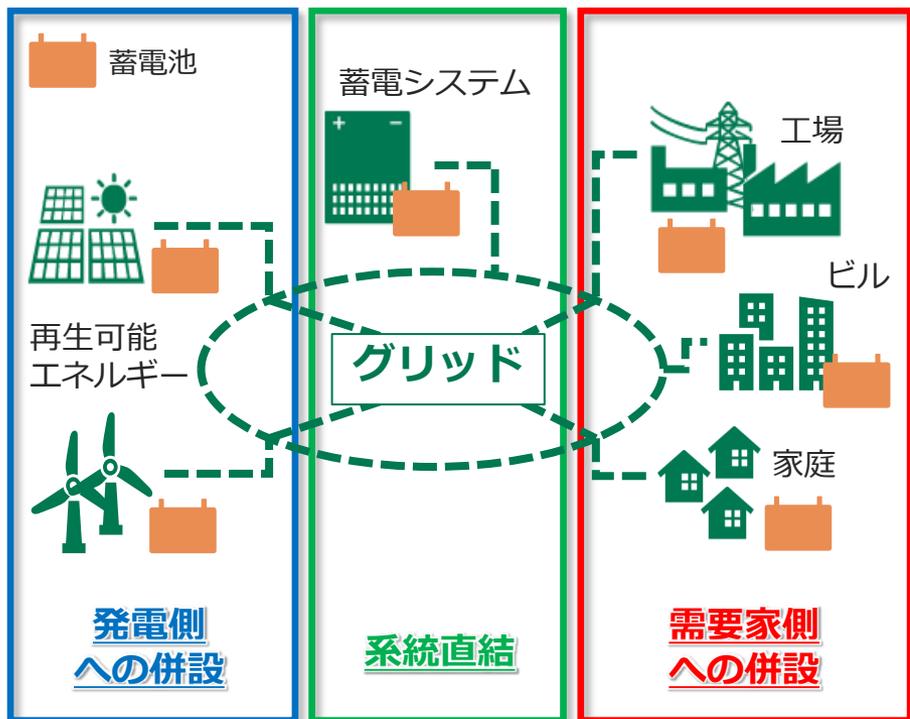
《研究開発能力目標》

2030年頃：**全固体電池の本格実用化、
技術開発をリードし続ける**

出典：経済産業省「蓄電池産業戦略」より当社作成

2. 再エネ市場での蓄電池の活用

蓄電池のグリッド（電力網）への接続



再エネの導入拡大に伴い、グリッドに接続し、電力システムの調整力強化に不可欠な蓄電池の重要性がより高まる

リチウムイオン電池の当社納入事例

釧路町トリトウシ原野 太陽光発電所（北海道釧路郡）



- 事業者：
（株）大林クリーンエナジー
- 出力：10MW
- 容量：6,750kWh

**太陽光発電の
出力変動緩和に貢献**

発電所全景

萩ヶ丘浄水場（北海道稚内市）



- 事業者：北海道稚内市
- 容量：2MWh

**自己託送制度※
における
系統電力の需給安定
を実現**

風力発電
蓄電システムコンテナ外観

※自家発電設備を持つ企業や自治体などの団体が、発電した電力を同団体の別拠点に、一般送配電事業者の系統網を使用して供給するもの

3. GSユアサの再エネ市場での取り組み

蓄電池の重要性の拡大

電力系統は国の基幹インフラであり、高い品質・安全性が求められる

「国産」「安全性」の2つをアピール
All in one でお客様への提供価値を高める

1. パワーコンディショナや蓄電池をパッケージ化
2. 製品から施工、メンテナンスまでを一貫体制で提供

再エネ市場でプレゼンスを高める

再エネ市場での新製品展開

再エネ市場への参入

- 世界最大規模の蓄電池設備 (北海道豊富町) への納入

2021年度
設置完了



現場状況全景

「All in one」による収益性の向上

- 第二世代蓄電池による蓄電システム

2022年度 下期
販売開始予定



さらなる競争力の強化

- 第三世代蓄電池の開発

エネルギー密度を高めた
コスト競争力のある
新型リチウムイオン電池

再エネ向けリチウムイオン電池の開発

第一世代
(LEPS-1)

公称容量：
65Ah
出力：450W

第二世代
(LEPS-2)

75Ah
526W

≪第一世代蓄電池比≫
長寿命化
容量維持率の向上
大容量化
約15%アップ

第三世代

未定

第二世代電池から
さらに大容量化を
目指す

風力発電の出力変動緩和
に貢献

出典：北海道北部電力送電（株）
(<https://www.hokubusouden.com/progress/869/#contents>)

4. GSユアサの再エネ市場での強み

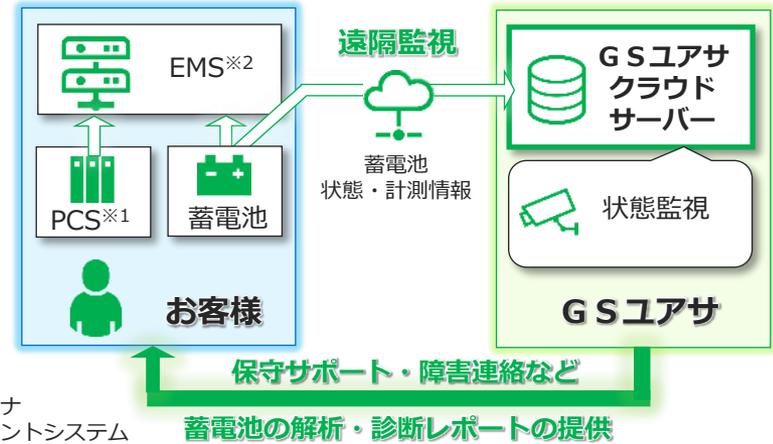
ネットワーク～DXを活用した保守・運用サービス～

STARELINKサービスイメージ

ネットワーク

DXを活用した
保守・運用サービス

- ▶ 長期間使用される発電設備に必須である安定稼働と最適制御を維持するため、AIやDXを用いた予防保全サービスを提供



※1 パワーコンディショナ
※2 エネルギーマネジメントシステム

STARELINKサービスの概要

蓄電池システムに監視装置を設置、クラウド環境に接続、遠隔監視を行います

- ▶ 蓄電池の健全性確認
- ▶ 計測値（詳細）情報の確認
- ▶ 長期間のデータ蓄積

遠隔監視
～クラウド活用～

クラウドに蓄積したデータを解析し、蓄電池システムの運用状況や劣化状態をレポートで提出します

解析・診断
～AI活用～

- ▶ 運用状態解析
- ▶ 蓄電池劣化診断
- ▶ 蓄電池異常予兆

- ▶ 蓄電池の劣化推定
- ▶ 保証容量の維持
- ▶ 運用の改善提案

容量保証
～予測技術～

想定される運用から蓄電池の劣化を予測し、15年（最大20年）必要な容量を保証します

保守・保全
～IT活用～

- ▶ 定期点検による健全性確認
- ▶ 定期部品交換による故障予防
- ▶ 異常発生時の修理・復旧対応

定期点検・部品交換による予防保全に加え、異常発生時の設備の修理・復旧対応を行います

4. GSユアサの再エネ市場での強み

フットワーク

～24時間365日対応可能な
サポートサービス～



フットワーク

24時間365日対応可能な
サポートサービス



➤ 日本国内100カ所以上のサービス拠点網を活用、業界最大級のサポート体制で24時間365日安心安全なサービスを提供し、BCP対応にも貢献

サービス提供の流れ



GSユアサ

現場での設置工事、
保守・メンテナンスを実施

お客様



- GSユアササービス拠点
- GSユアサ100%子会社サービス拠点
- GSユアサ特約店サービス拠点

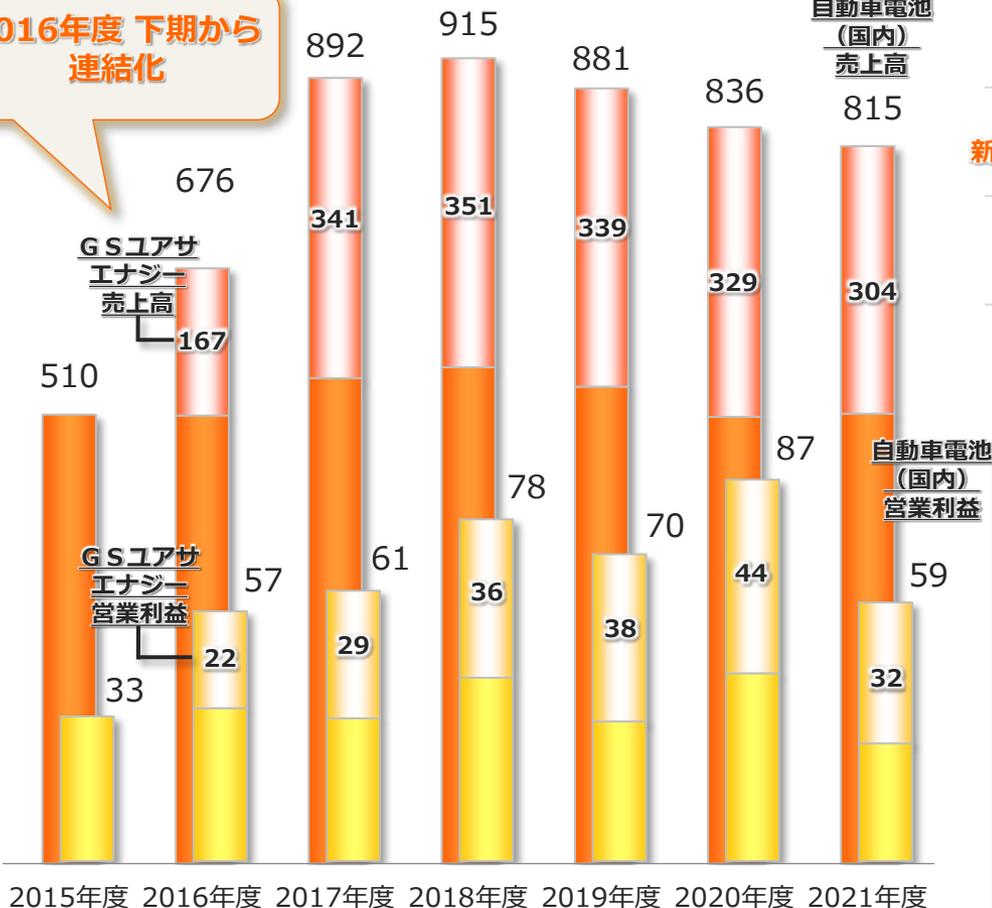
豊富なサービス人材：約**1,000**人
※GSユアサ認定の蓄電池専門知識を有した者

GSユアサ エナジーとのシナジー効果の創出

1. 譲受後の業績とシェアの推移

自動車電池（国内）事業の 売上高・営業利益

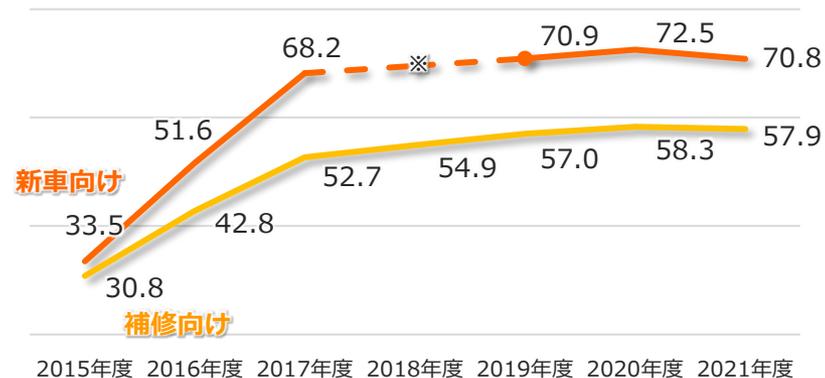
2016年度 下期から
連結化



(億円)

新車向け・補修向けシェア推移

シェア (%)



2015年度 2016年度 2017年度 2018年度 2019年度 2020年度 2021年度

※ 2018年度についてはシェア情報なし

(注) 自社調べ（輸入電池含まず）

のれん等を除いた利益への貢献

➤ のれん等償却累計額：約**114億円**

(2016～2021年度累計)

➤ GSユアサ エナジーの営業利益累計額：
約**201億円** (2016～2021年度累計)

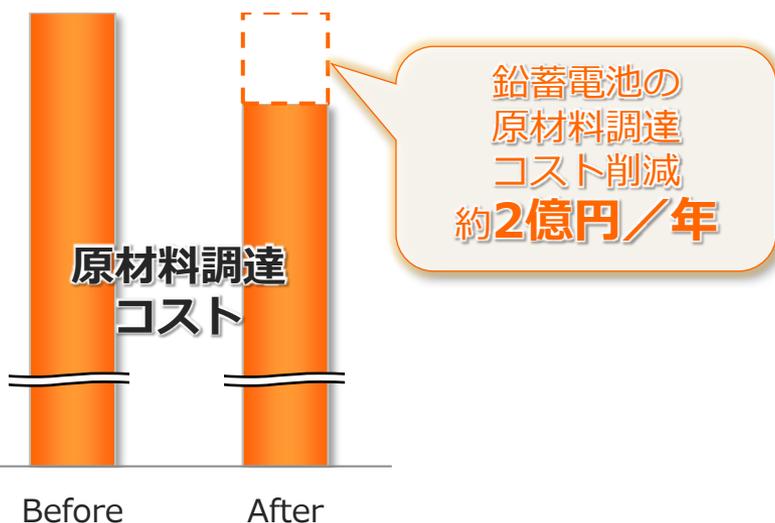
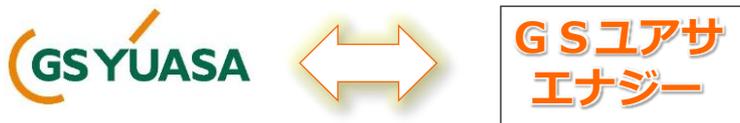
のれん等償却額を上回る利益とシェア向上で
GSユアサの事業拡大に貢献

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益です。営業利益のスケールは調整しています。

2. シナジー効果の創出

共同購買の実施

調達の一元化



シナジー効果

- ▶ 物量の増加によるコスト削減
- ▶ 原材料価格の共有によるコスト削減

蓄電池の相互供給

大型蓄電池（業務用車用）、EN電池【約10万個/年】



小型蓄電池、VRLA電池【約40万個/年】

海外拠点からGSユアサ エナジーへのEN電池の供給も開始

シナジー効果

- ▶ ラインアップ拡充
- ▶ 供給能力の融通による販売機会の最大化
- ▶ 投資の抑制

その他のシナジー

- ▶ 製造設備の導入支援
- ▶ 技術ノウハウの相互共有

シナジー効果

- ▶ 両社協働での製造工程の改善
- ▶ 開発・評価のスピードアップ

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報） 青木 裕 ・ 西島 務 ・ 田中 祥太
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

參考資料

サステナビリティ活動に対する社外からの評価

サステナビリティ評価

(2022年10月末時点)

	MSCI (米) ESG格付け ^{※1}	FTSE (英) ESG格付け ^{※2}	東洋経済新報社 ^{※3} CSR評価				CDP (英) 評価 ^{※4}
			人材 活用	環境	企業 統治	社会性	
2022年	BBB	3.6	AA	AAA	AA	AA	A-
2021年	A	3.6	AAA	AAA	AA	AA	B
2020年	A	3.4	AA	AAA	AA	AA	B
2019年	A	3.2	AA	AA	AA	AA	B
2018年	AA	2.5	AA	AA	AA	AA	B-

※1 MSCI (米) ESG格付けはジャパンESGセレクトリーダーズ指数によるものであり、「AAA、AA、A、BBB、BB、B、CCC」の7段階評価

※2 FTSE (英) ESG格付けは、「1~5」の5段階評価

※3 東洋経済新報社CSR評価は「AAA、AA、A、B、C」の5段階評価

※4 CDPは「A、A-、B、B-、C、C-、D、D-」の8段階評価

サステナビリティへの取り組みに対する評価、認定、表彰



- 経済産業省の「健康経営優良法人2022」に認定



- DBJ健康格付の最高ランク「従業員の健康配慮への取り組みが特に優れている」を取得

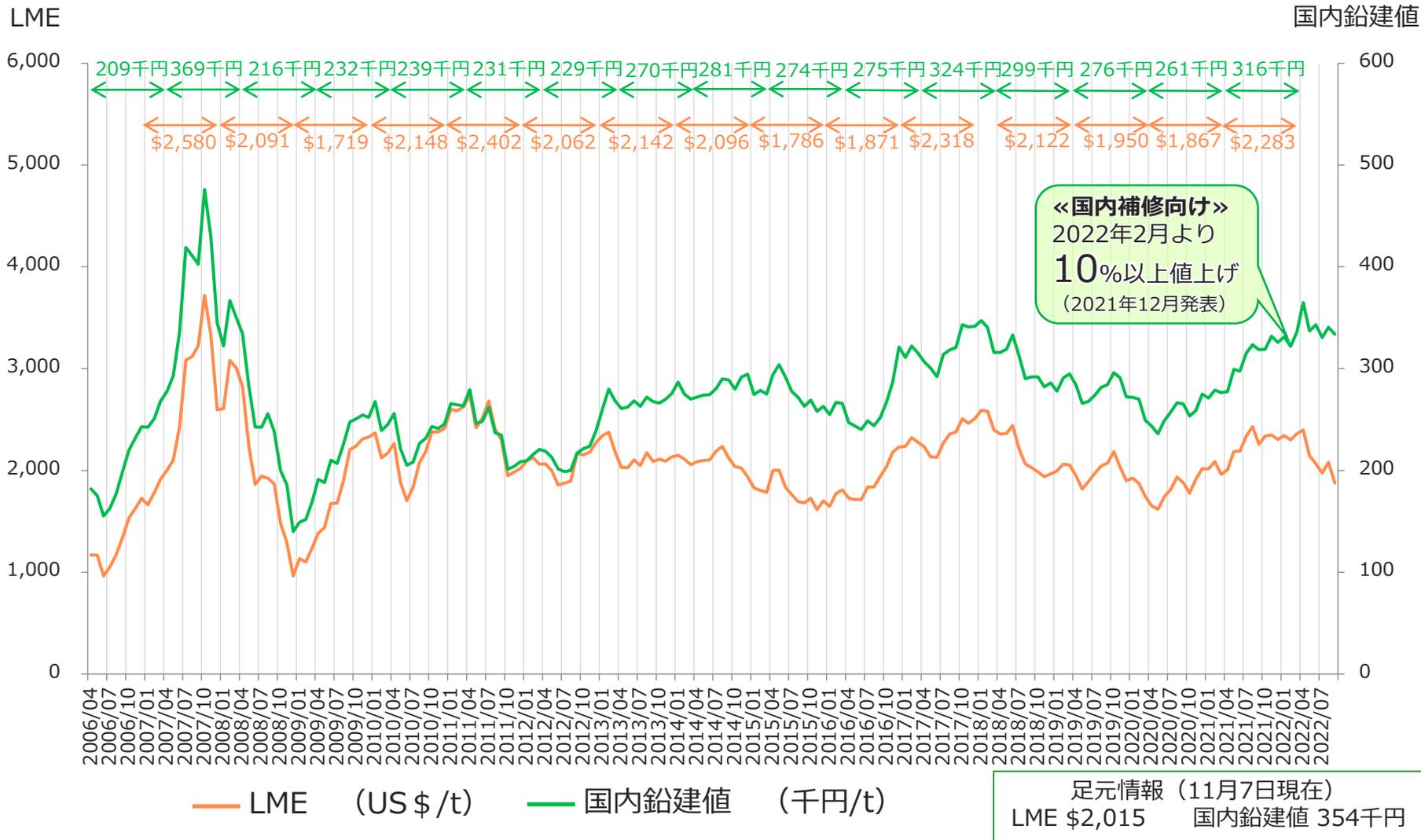


- 厚生労働省の「子育てサポート企業」として「プラチナくるみんマーク」認定を取得



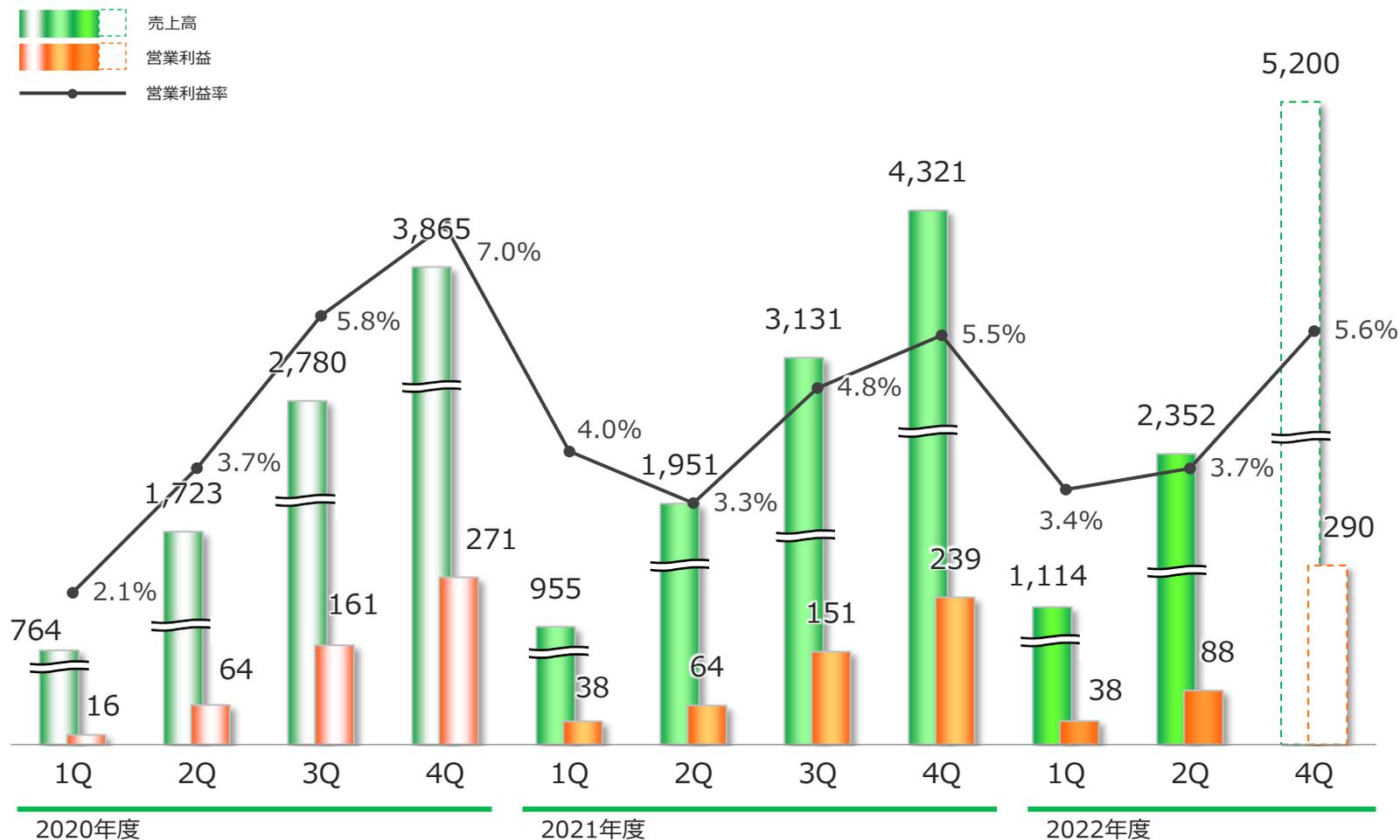
- 経済産業省と東京証券取引所が共同で選定する「なでしこ銘柄」に選定

原材料価格の推移



売上高・営業利益・利益率推移

(億円)



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。